



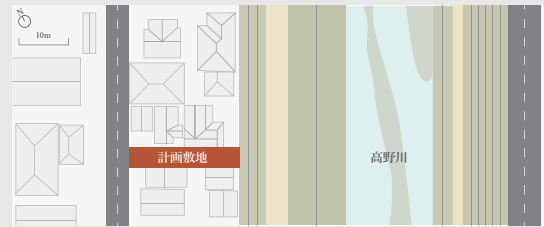
UNIT—京都産建売ユニット住宅—

“材”に触れ、“枠”を越え、想いを馳せる家

テクスチャに触れて、素材に想いを馳せる。
ユニットに触れて、暮らし方に想いを馳せる。
グリッドに触れて、技術に想いを馳せる。
従来の住宅の殻を破り、
今まで見えてこなかったものに意識が向けられる。

1 計画敷地

川の西側に面した京都市内の住宅地。
三間開口で、奥行き長い敷地である。



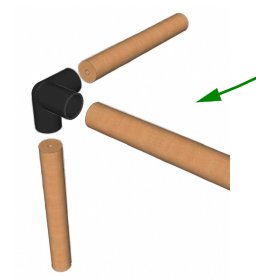
2 プログラム

手を伸ばしやすい建売形式での販売により、北山丸太の認知度を向上させる。
4人家族を想定した、ユニット形式のプランとなっている。
また、個別のユニットや北山丸太建材の販売も視野に入れる。

3 北山丸太建売住宅の構成：「グリッド」と「ユニット」

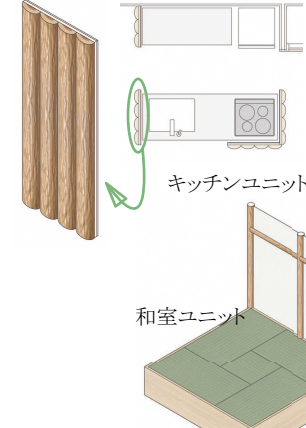
①910mmピッチの【丸太グリッド】で全体を構成

丸太材活用の障壁となる
施工難度を解消するため、
断面を欠損させずに
グリッドを組むジョイントを導入



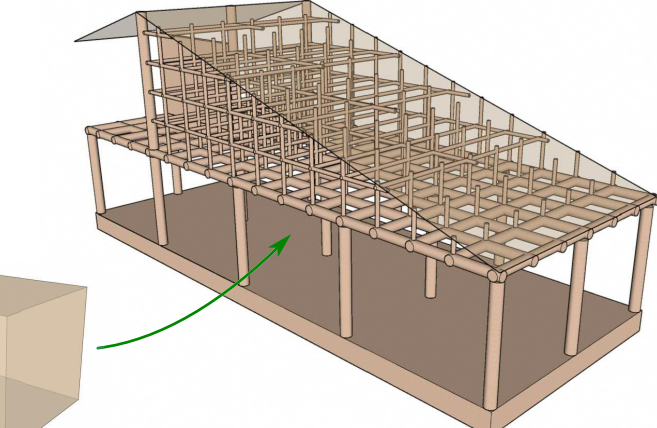
立体的に交差する梁は、
水平方向に向けて北山丸太の力強さを強調し、
垂直方向に向けて大きな気積の空間をリズミカルにする。

②機能と質感をもった【丸太ユニット】を計画



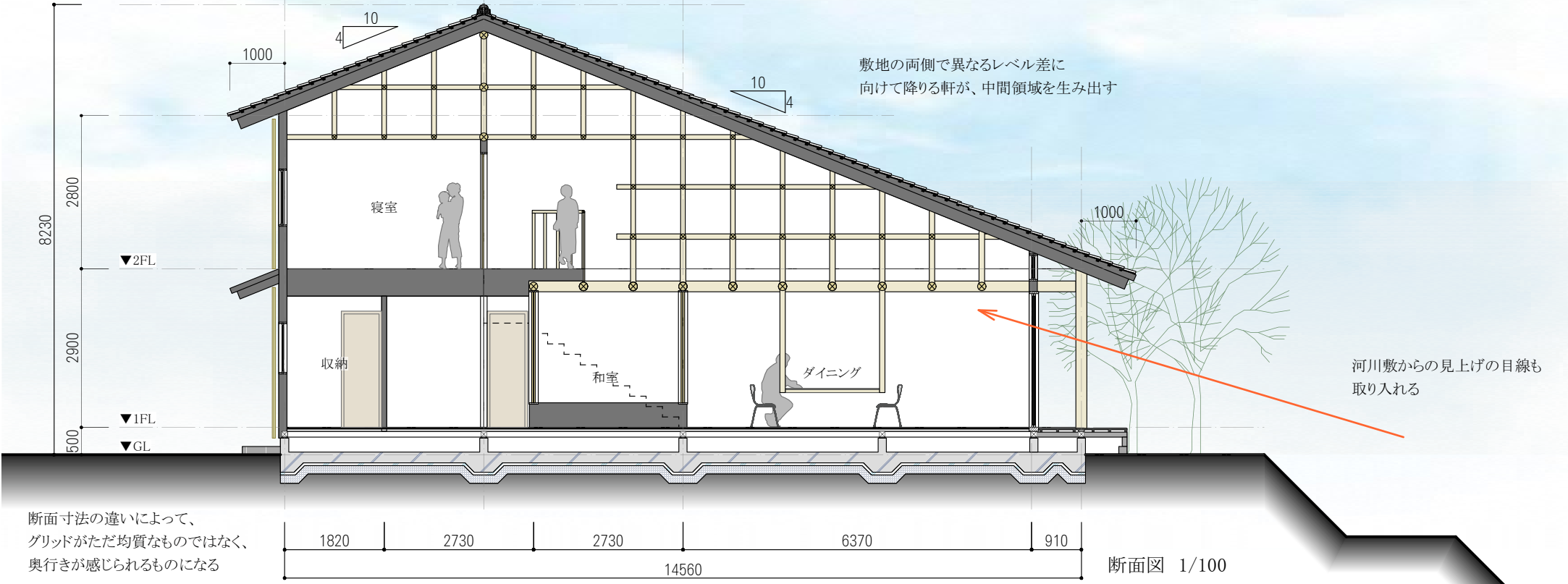
北山丸太建材を使用し、単体でも構造・施工が成立する空間ユニットを導入する。
側面や上面から触覚・視覚的に北山丸太を感じさせ、内外に質感をもつ住まいの核となる。

③【グリッド】に合わせ、【ユニット】を自由に配置



住宅の躯体を支える上部のグリッド。
それに沿って配置されたユニット。
上部の空間が下部の境界線に沿いながらも、異なる動きで構成されることで、
一室空間にいくつもの境界が貫入し、奥へと誘われる。

4 断面計画



断面寸法の違いによって、
グリッドがただ均質なものではなく、
奥行きが感じられるものになる

断面図 1/100

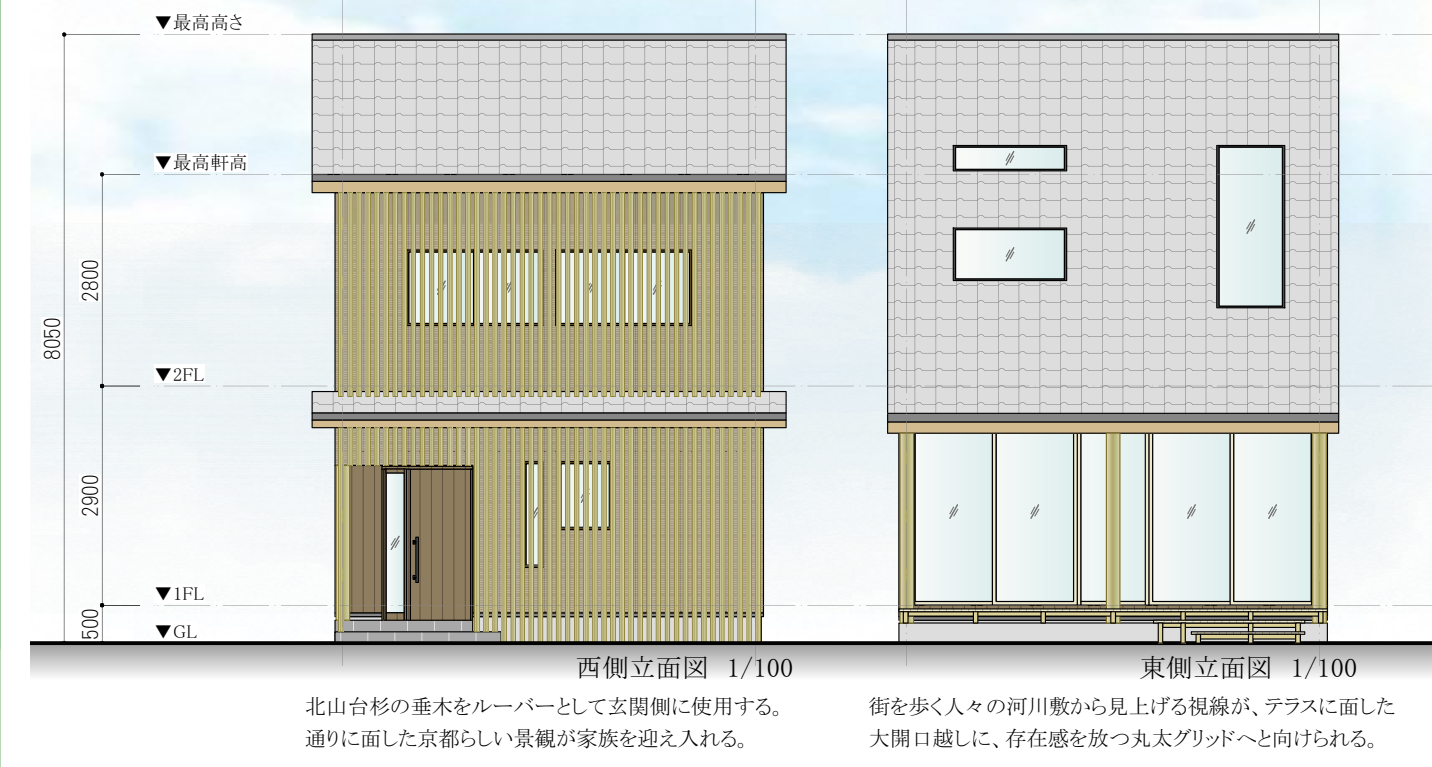
5 平面計画



《計画概要》
敷地面積：154.74㎡
建築面積：79.49㎡
1階面積：72.87㎡
2階面積：44.71㎡
延床面積：117.58㎡
階数：地上2階建て

《家族構成》
夫（40代）
妻（40代）
長女（14歳）
次女（11歳）

6 立面計画



西側立面図 1/100

北山台杉の垂木をルーバーとして玄関側に使用する。
通りに面した京都らしい景観が家族を迎え入れる。

東側立面図 1/100

街を歩く人々の河川敷から見上げる視線が、テラスに面した
大開口越しに、存在感を放つ丸太グリッドへと向けられる。

7 北山丸太建材活用方法



丸太板目割壁材 - 目で触れる
表情の異なる材料の表裏の並び
が空間に特性を与える。

丸太柱目割壁材 - 手で触れる
長手方向に表情の異なる材料
が空間に特性を与える。

丸太床材 - 素足で触れる
すべすべとした心地良い
足触りを愉しむ。

丸太桂剥き壁材 - 年輪に触れる
表から芯までベニヤを取ること
でパネルに色の差異が生まれる。

8 内部シーン



河川敷から敷地を見上げると、
丸太グリッドの下の半屋外空間が窺える

丸太梁からダイニングテーブルなどの家具を吊り下げ、
構造と暮らしのスケールを橋渡する

玄関を入ると、
土間に向けて
座敷ユニットが
貫入しており、
障子の向こうの
吹き抜け空間へ
と誘われる

インナーバルコニーから吹き抜けを望むと、
見上げるだけでないグリッドとの位置関係が生まれる